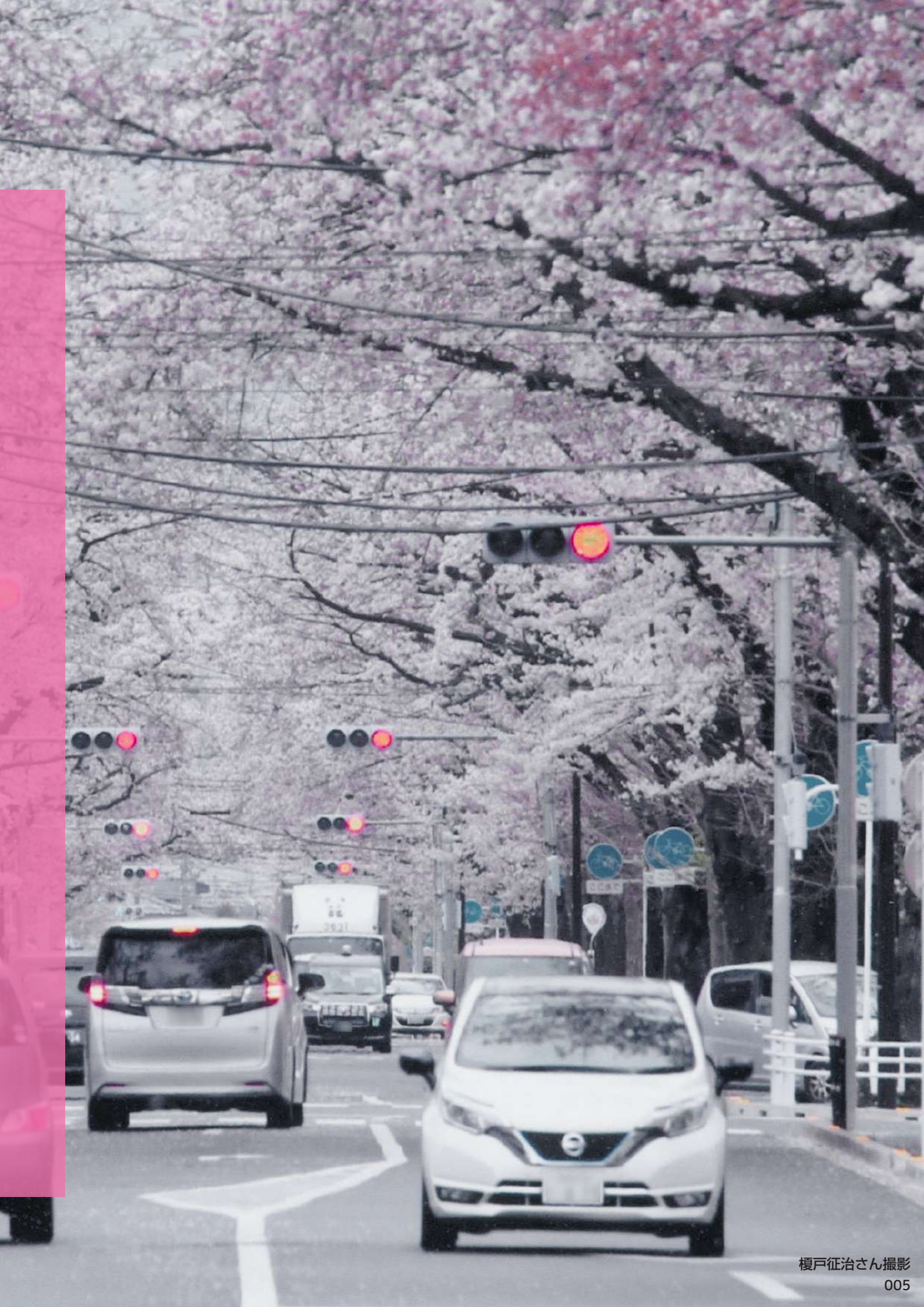


02

構想の見方・使い方

～協働まちづくりの手引書として活用しよう～

- 1 構想の位置付けと構成
- 2 構想策定の背景となる社会状況



1 構想の位置付けと構成

(1) 位置付け

構想は、ビジョンで示された将来像、「人が主役、多彩な暮らしが重奏するまち 富士見台」を実現するために、富士見台地域においてまちづくりを行う際に関係者が共有すべき6つの整備方針および重点的・優先的に進める10の重点プロジェクトを示したものです。

構想は、単に行政だけが行う施策を取りまとめたものではなく、市民と行政が協働で進めるまちづくりの取組とプロセスを専門家のアドバイスを受けてまとめた富士見台地域における「協働まちづくりの手引書」となります。

今後は、この手引書を活用して、市民、地域活動団体、事業者等、行政が協働でまちづくりを進めるとともに、次世代を担う子どもたちも自分が住むまちの魅力を知り、まちづくりに関わるきっかけになればと願っています。



平成30(2018)年2月策定
国立市富士見台地域まちづくりビジョン

富士見台地域の魅力や今後想定される課題を踏まえながら、まちづくりの方向性を示した

この将来像は、富士見台地域の魅力を活かしながら、さらに伸ばすための3つの視点(暮らし・コミュニティ・街)を踏まえたものです。「人間を大切にする」という国立市のまちづくりの基本理念に基づき、現在お住まいの方々の居住の安定を大切にしながら、積極的に若者・子育て世代を呼び込み、国立市の次の50年を見据え、他の地域にとってもモデルとなるような先進的なまちづくりを進めていきたいと思えます。



[国立市ホームページ]
国立市富士見台地域まちづくりビジョン(平成30(2018)年2月策定)

まちの将来像

人が主役、多彩な暮らしが重奏するまち 富士見台

～コミュニティインフラの創造・展開へ～

多世代がつながり、支え合い

だれもが安全、快適で豊かな暮らしを楽しみつづけられるまち



令和3(2021)年5月
国立市富士見台地域重点まちづくり構想

将来像を実現するために、具体的な整備の方針および
重点的・優先的に進める重点プロジェクトを示す

協働まちづくりの 手引書

- 富士見台地域まちづくりの6つの整備方針
- 整備方針に基づく、まちをよくする取組

重点的・優先的に
取り組むべきこと

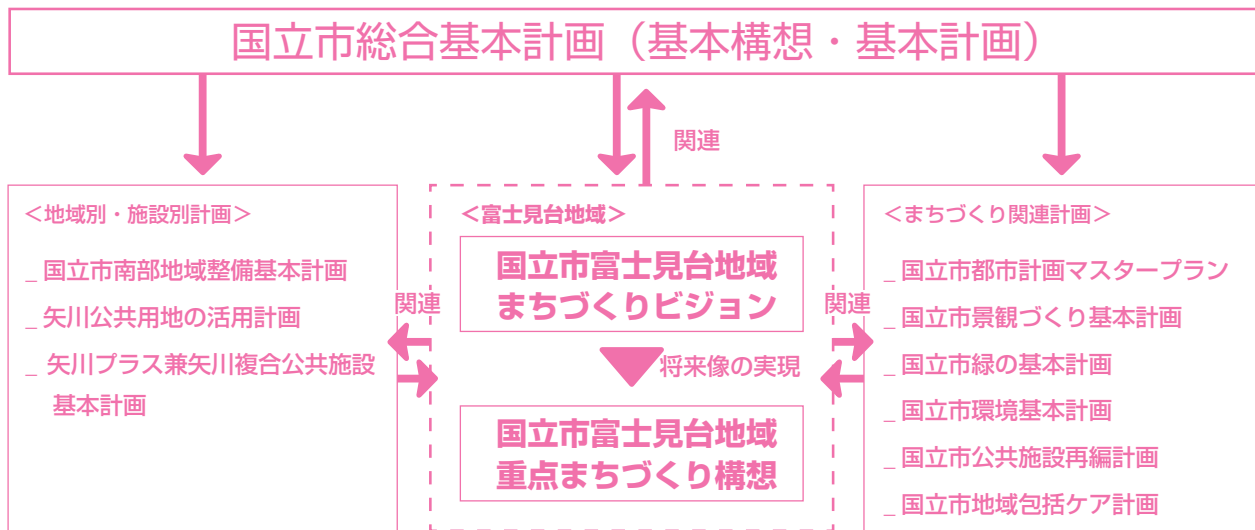
10の重点プロジェクト

できることから始める
小さな成功体験を積み重ねる

重点プロジェクトの推進

(2) 関連する計画等

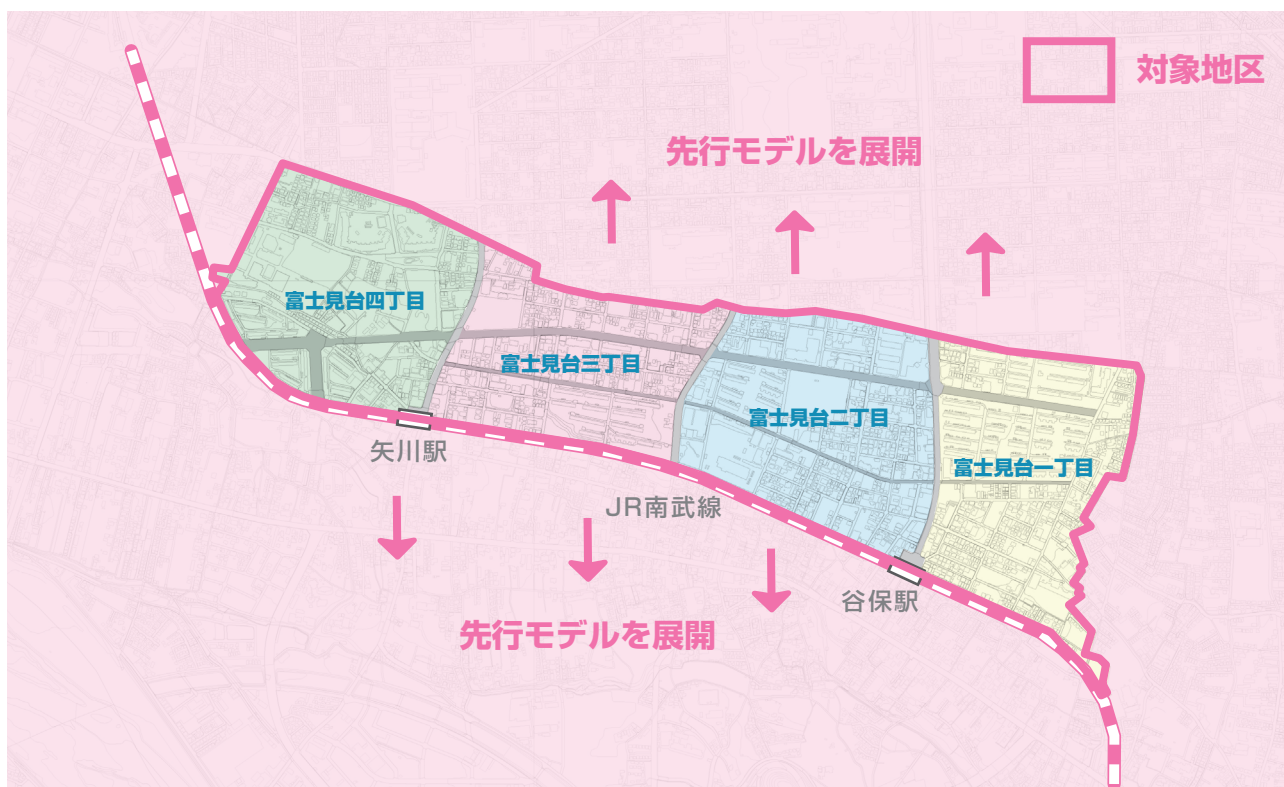
構想は、下図のように、国立市総合基本計画（基本構想・基本計画）の考え方をもとに、市の地域別・施設別計画、まちづくり関連計画の内容との関連性に留意しながら、その実現をめざします。



(3) 構想の対象地区

都市計画マスタープランに位置付けられた「富士見台地域（128.2ha）」を対象とします。

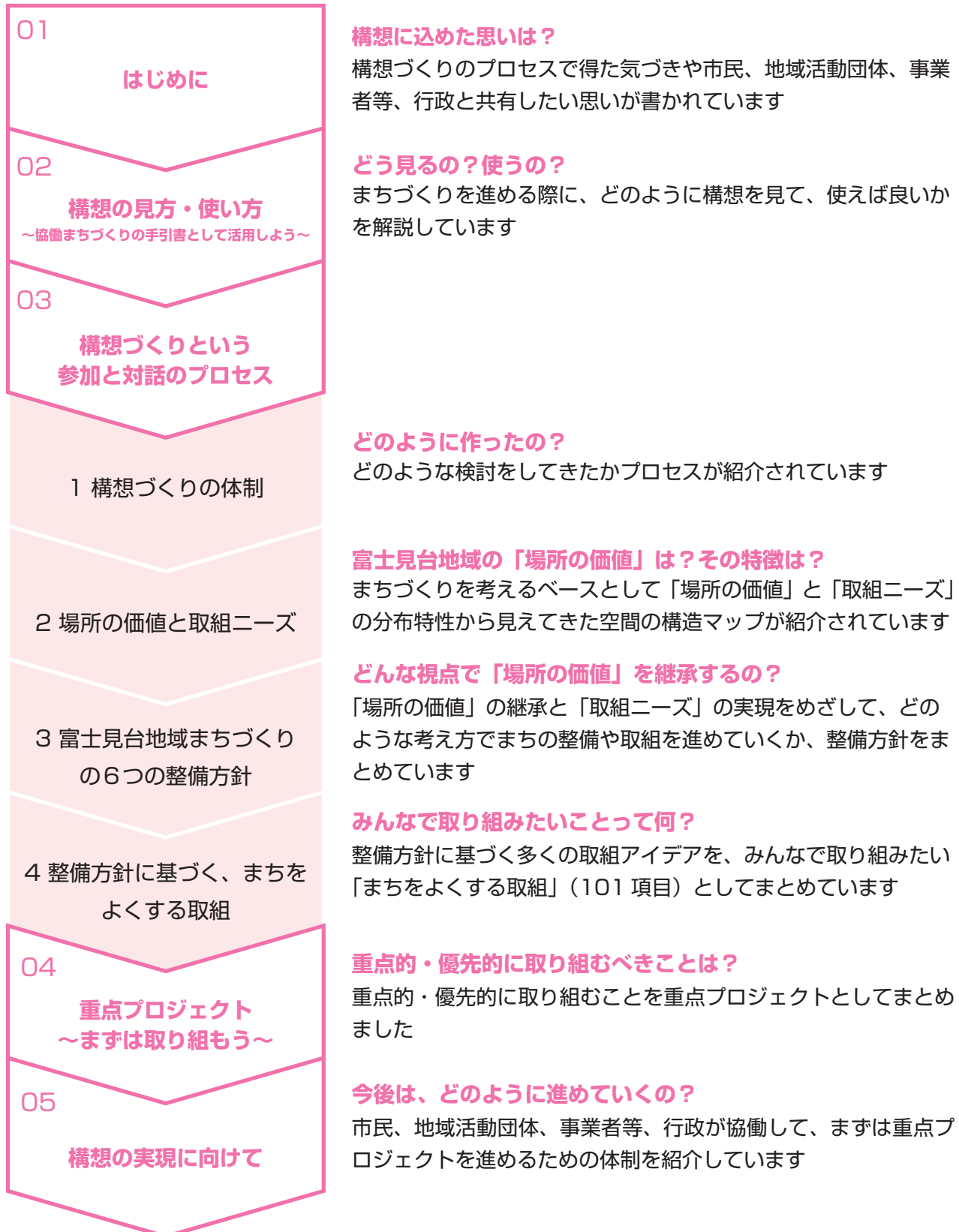
富士見台地域は、公共施設が集積した国立市の中核となるまちであることから、このエリアのまちづくりが、本地域のみならず、他地域の暮らしの向上にもつながり、大きな波及効果をもたらすと考えています。超高齢社会・人口減少社会における、国立市におけるまちづくりをけん引する先行モデルづくりを進めます。



(ベースマップ出典：東京都都市計画地理情報システムデータ/以降マップ同様)

(4) 構想の見方・使い方

構想は、5章構成になっています。各章の趣旨と流れについて紹介です。



2 構想策定の背景となる社会状況

構想は、これからの社会状況の変化に対応できるまちづくりのモデルをつくる取組をまとめたものです。ここでは、その背景として踏まえたい、想定される変化を紹介します。

① 将来人口の推計

国立市では、令和2(2020)年の高齢化率が23.2%、40年後には30.5%となることが推計されています。富士見台地域では、国立市と比較して人口の減少率が高く、令和2(2020)年の高齢化率が25.3%、40年後には35.8%となることが推計されており、国立市の中で、特に高齢化が進展する可能性があります。

超高齢社会においては、多世代が共に支え合う仕組み（地域包括ケア）の実現が求められます。

国立市 人口推移（現在～未来）



富士見台地域 人口推移（現在～未来）



(出典：国立市統計データより作成)

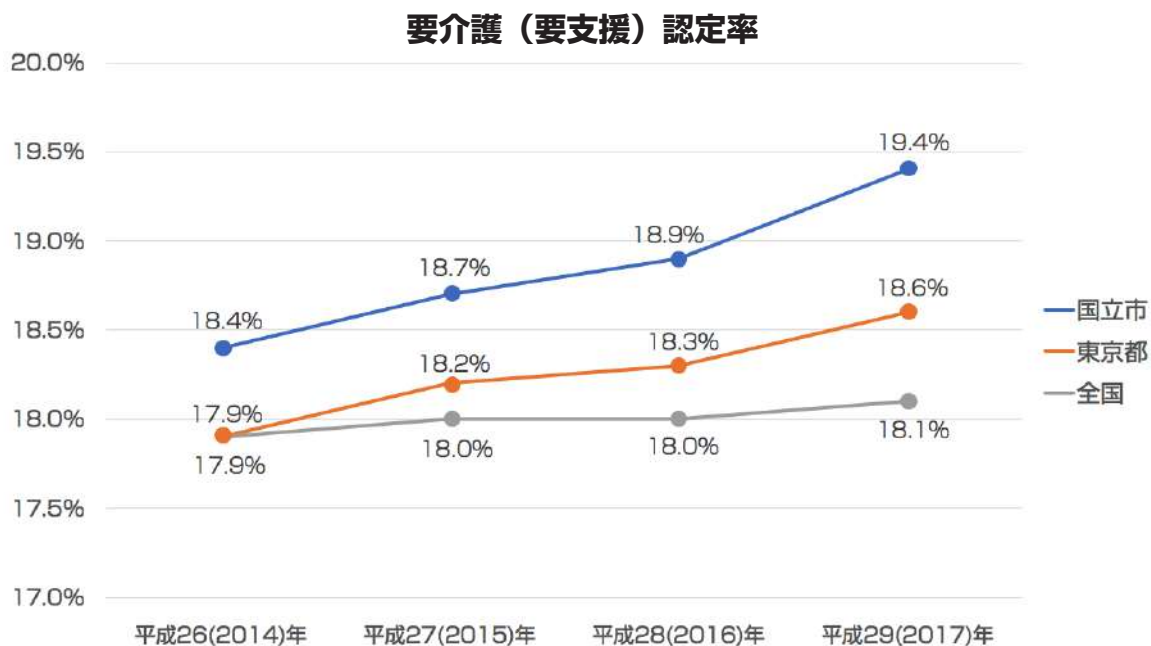
②要介護（要支援）者の割合

国立市では、要介護（要支援）認定率が、平成 29(2017) 年で 19.4% となっており、東京都や全国と比べても高い水準にあります。

東京大学との共同研究^(※1)では、外出頻度が少ないことが、要介護・要支援のリスク要因の 1 つとなる可能性が示されています。だれもが自分らしく、そのまちで暮らし続けられるためには、外出しなくなるまちの環境づくりのほか、生活を支える居場所づくり、支え合いのコミュニティづくりなどを通じて、まちに出る機会を増やし、市民の健康寿命の伸ばしていくことが求められます。

また、富士見台地域の要支援・要介護認定者は、国立市の他地域と比べて要支援者が多く、週 1 回以上、外出する市民も多い一方で、移動時に見守りや一部介助、全介助など、移動に際して配慮を必要とする市民が多いことがわかっています。要支援・要介護認定を受けた後も、自分ができることを維持・向上させ、より重度の状態になることを予防することが大切です。そのためには、移動に配慮が必要な人にとっても、外出しやすい、外出しなくなる環境を整備し、だれもが、自分が住み慣れた場所で暮らし続けるような取組を地域ぐるみで進めることが求められます。

(※ 1)国立市と東京大学は、富士見台地域のまちづくりに関する 3 年間の共同研究を行いました。
(P19 参照)



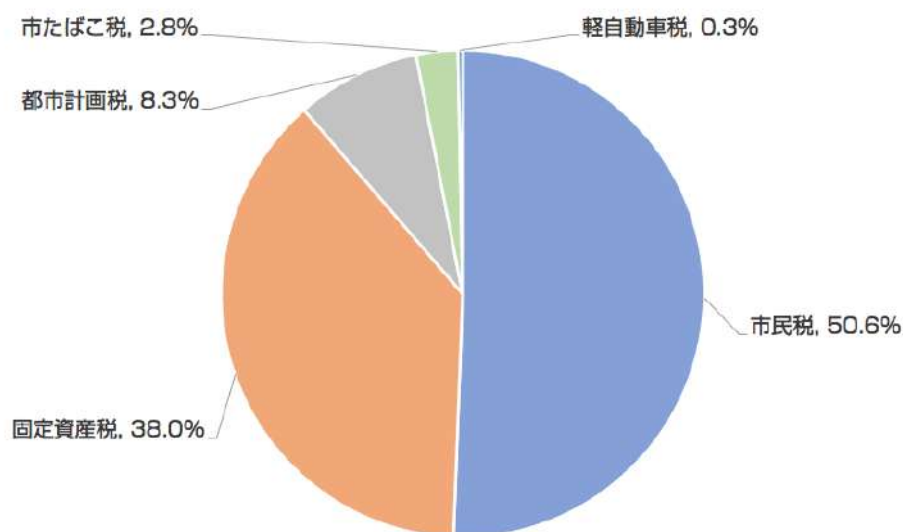
(出典：国立市地域医療計画／平成 31(2019) 年 3 月)

③市税の構成

国立市の財政においては、市民税は非常に重要な財源になっています。生産年齢人口（15～64歳）がこのまま減少した場合、必要な政策・事業の実施への影響も想定されます。

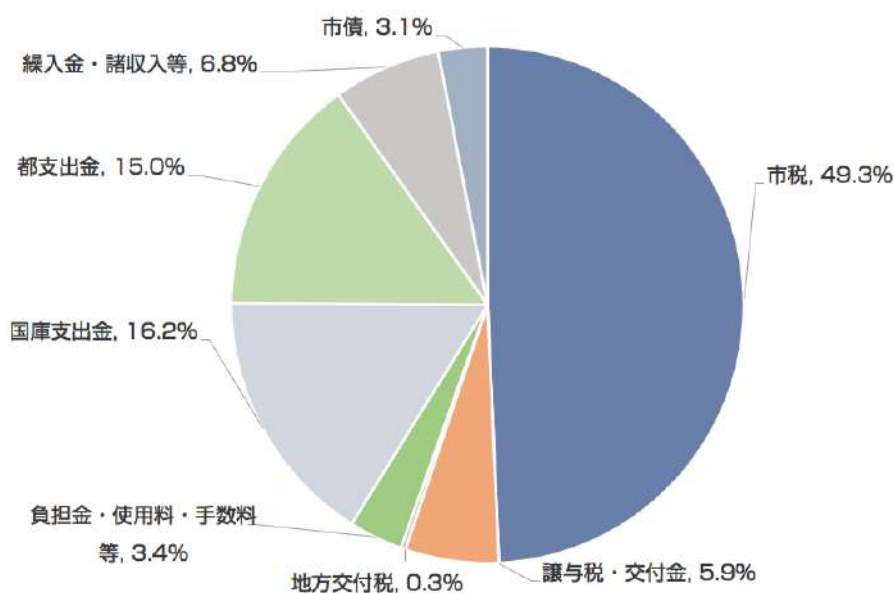
国立市に住みたくなる、住み続けたいまちづくりを進めることで、急激な人口減少を抑止することも大切ですが、限られた財政の中で、よりの確かつ効果的な取組を行っていくことが求められます。

国立市 市税の構成



(出典：国立市市税概要／令和2(2020)年度版)

国立市 普通会計歳入決算額の内訳



(出典：決算概況 令和元(2019)年度決算／国立市)

④子育て世帯の地域への満足度と居住理由

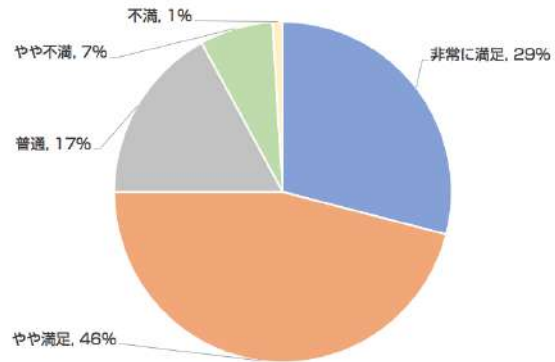
小学生を子に持つ世帯へのアンケート調査^(※)では、地域への満足度に関して、「非常に満足」「やや満足」と回答した世帯が75%となりました。

現在の価値ある暮らしの環境を継承しながら、さらに、まちづくりの次世代を担う子どもたちが国立市でいきいき育ち、暮らし続ける環境を創造していくためにも、市民、地域活動団体、事業等、行政の協働により、まちづくりを実践していくことが求められます。

(※) アンケート母数は、第三・五・六・七小学校の
1・3・5年生がいる世帯 552

(出典：平成 30(2018) 年度「おでかけ」や「あそび」に関するアンケート調査より)
(実施：東京大学まちづくり研究室、協力：国立市)

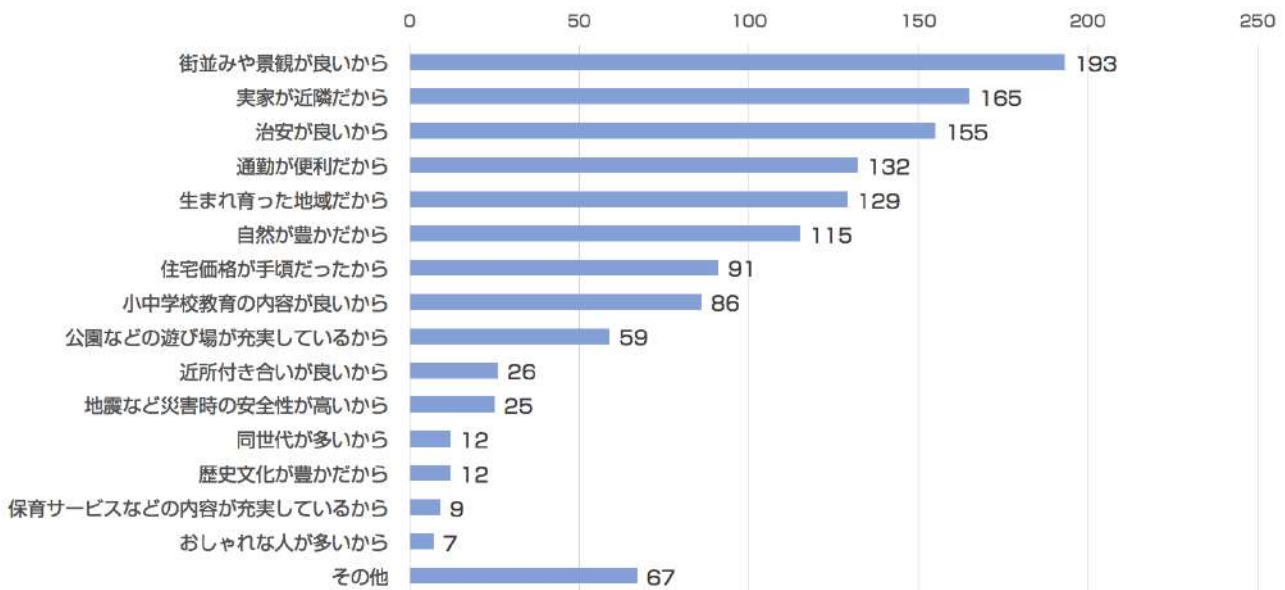
地域への満足度



居住理由に関しては、「街並みや景観が良いから」が最も多い理由となりました。

「街並みや景観の良さ」は、まちの空間のみならず、そこで行われている活動や活動が描き出す風景も合わせて作り出されるものです。富士見台地域のまちづくりで大切にしている「場所の価値」の継承は、街並みや景観の良さをさらに高める取組であり、住みたいと思えるまちの創造につながると考えています。

居住理由



(出典：平成 30(2018) 年度「おでかけ」や「あそび」に関するアンケート調査より)
(実施：東京大学まちづくり研究室、協力：国立市)